

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

92

2020. 4. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ ..... 1
2. 2019年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開く ..... 2
3. 2019年度兵庫JCC協同組合研究・交流会を開く ..... 4
4. 兵庫JCC2020年度活動計画 ..... 5

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一  
JA（農協）/JForest（森林組合） ..... 6  
生協/JF（漁協） ..... 7
6. 協同組合運動に生きる  
「虹の仲間とともに」  
生活協同組合コープこうべ 組織管理部 人材開発  
コープこうべ教育学習センター 齋藤 優子 ..... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### ピースアクション2019【第2弾】～『<sup>375</sup>の鷺野飛行場』を巡る～



#### 生協

10月22日(火)、ピースアクション2019【第2弾】を開催し、『兵庫県広域防災センター』と『鷺野飛行場跡』を訪ねました。鷺野飛行場跡では、語り部の案内で防空壕跡や戦闘機「紫電改」模型を見学する等、平和の大切さを考える一日となりました。

### お米づくりを体験～食農教育活動の実施～



#### JA（農協）

JAグループでは、地域の農業や文化を守っていくために食農教育活動を行っています。JA加古川南では、小学校や町内会、農会とともに、小学生を対象にした体験活動を行い、この日は自分たちで作ったお米をかまどで炊き上げました。

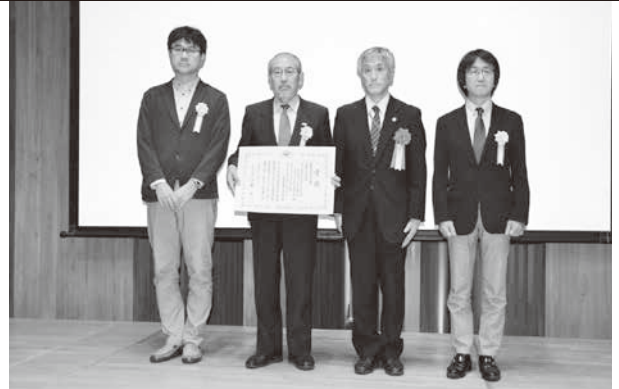
### 第44回淡路のり品評会



#### JF（漁協）

2月3日(月)、洲本市内において第44回淡路のり品評会が開催され、漁業関係者や報道関係者らが集まる中、優秀品24点が選ばれました。今年は色・艶・風格・味の基準で高評価を得たものが多く、審査員を悩ませていました。

### 兵庫県林業会館が農林水産大臣賞を受賞



#### JForest（森林組合）

兵庫県林業会館が木材利用優良施設コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞しました。都市部の防火地域にあって、CLTをガラス越しに外部に見えるように工夫している点が評価されました。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634  
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5870  
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013  
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

# 2019年度 「虹の仲間づくりカレッジ」を開く

兵庫 JCC は、生活協同組合コープこうべとの共催で2019年度「虹の仲間づくりカレッジ」を全3回の講座で開催し（第1回：7月11日～12日、第2回：9月6日、第3回：2月13日）、各協同組合の若手・中堅職員を中心に21人が参加しました。前年度に引き続き、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」をテーマに開催しました。4班に分かれて、環境や地域等が抱える課題に対して、協同組合が連携して解決できることについて考え、打ち合わせを重ねて実践活動を行いました。

2月13日に最終回となる第3回カレッジを開催し、各班それぞれが実践した活動について報告しました。活動の目的、活動の内容、参加者の声、活動がSDGsの17の目標のどれに該当するのか等について、動画を交えるなど各班工夫を凝らして発表しました。ま

た、報告を聞いた他の班から、良いと感じた点やアドバイス等をフィードバックしました。

どの班も課題をしっかりと見据え、事前に関係者と調整した上で実践に臨んでおり、レベルの高い実践がなされました。また、マニュアルを作成しパッケージ化するなど、多くの班が、単発の取り組みで終わってしまわないよう継続性を意識している点も、特徴的でした。

全3回のカレッジと実践を通じて、次世代を担う協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、協同組合の意義や役割について学びました。参加者からは、「他の協同組合の人とつながりを持てたことは大変良かった」「協同の輪を広げることで大きな力を生むと感じた」等の前向きな感想が寄せられました。



報告に向けた打ち合わせの様子



各班が工夫を凝らして実践活動を報告

## 1班 ひょうご森のまつりへの出店 ～木を食べる！～

11月9日 兵庫県立甲山森林公園

森林の大切さを知ってもらい、木を積極的に使ってもらうために、県などが主催するイベントに出店し、紙芝居やスーパーウッドパウダーを使用したバウムクーヘンづくりや商品の試食などを行いました。

また、持続可能なコンテンツとして今後も活用するために、取り組みをパッケージ化しました。



バウムクーヘンづくりを体験

## 2班 たこ釣り体験

10月14日、11月4日 コープこうべ姫路砥堀店、田寺店

地域の活性化に向けて、地元の良さを知ってもらう、再認識してもらうために、コープこうべの店舗で、たこ釣り体験を行いました。

イベントは大盛況で、子どもを中心に多くの人に楽しんでもらいました。また、このイベントは店舗の供給高や客数のアップにもつながりました。



楽しくたこ釣り体験

## 3班 マイクロプラスチック採取体験と ペットボトル菜園の実演

11月30日 大庄元気むら ～コープさんとこ～

マイクロプラスチックの削減に向けて、コープこうべが実施する環境イベントに参加し、マイクロプラスチックの採取体験とペットボトル菜園の実演を行いました。

参加者からは、砂浜にマイクロプラスチックがこんなにあるとは思わなかった、孫と一緒にペットボトル菜園をやってみるなどの感想があがりました。



マイクロプラスチック採取体験

## 4班 ジェンダー平等に向けた ワークショップと料理教室

1月26日 兵庫県水産会館

ジェンダー平等の実現に向けて、夫婦間のコミュニケーションを図り、男性の家事参加を促すために、夫婦の家事分担等について話し合うワークショップと料理教室のイベントを開催しました。

参加者からは、今までルーズでごめんね、自分でも料理ができたという達成感があつたなどの感想があがりました。



料理教室で魚料理に挑戦

# 2019年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会を開く

兵庫 JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）では、年に一度、協同組合間の理解と交流を深めようと 2008 年から「協同組合研究・交流会」を開催しています。今回は 10 月 23 日に生協・農協・漁協・森林組合等の役員・職員ら 32 人が参加し、新しく建て替えた「兵庫県林業会館」と緑の雇用と呼ばれる新規就業者が行う「木材の搬出作業」の研修を視察しました。

午前中、参加者は 2019 年 1 月に木材利用の促進を目的に建設された「兵庫県林業会館」についての説明を受け、視察を行いました。

新しく建設された林業会館は、CLT（直行集成板）と呼ばれる木の繊維方向を直角に交



林業会館ロビーの見学

差させて積み重ねた大型の木材パネルと鉄骨を組み合わせた新技術「CLT+鉄骨ハイブリット構造」であること、新技術を使用することで、都市部では難しかった木造オフィスビルの建設が可能となること等を学びました。

林業会館の概要説明を受けた後、実際に林業会館の木質感あふれる執務室やロビーに展示している木製玩具、兵庫県産木材を使用した椅子、CLT のマザーボードに加え、市松模様に配した CLT パネルを見学しました。

また、移動中のバス内では、東日本大震災の被災地の人々とワーカーズコープ（協同労働の協同組合）とが、ともに復興と仕事おこしの取り組みを記録したドキュメンタリー



新林業会館

映画「Workers 被災地に立つ」を鑑賞し、被災地での地元資源を活かした地域復興や林業の復興等を学びました。

午後からは神崎郡神河町の山で「森林の持つ機能」、「間伐の目的・効果」などを学び、森林の適正な管理について理解を深めました。

次に「緑の雇用」と呼ばれる林業事業体に採用された方を対象として、林業に必要な知識・技能を学んでもらうための支援事業を活用した研修現場の見学をしました。今回は林業に従事して 3 年目の方々が、切った木を森林から運び出す作業を行っており、「プロセッサ」と呼ばれる枝払い、玉切り、集積が行える重機、「スイングヤード」と呼ばれるワイヤーを用いて森林の奥にある木を運び出す重機、そして、「フォワーダ」と呼ばれる玉切りした木材を荷台に積むことが出来る重機を使用していました。普段は見る事が出来ない重機のため、参加者は真剣に見学していました。

また、重機の操作を数人の参加者が体験し、操作の難しさや楽しさを実感していました。

参加者からは「貴重な体験ができました」「森林を守ることの大切さを再確認しました」「ひょうごの森で育った木材でよい暮らしが実現できればいいな」等の感想が寄せられました。



参加者による重機の操作体験



重機の前で記念撮影

# 兵庫JCC2020年度活動計画

目的：協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	主な活動内容	規模	実施日
第 98 回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講演：「あなたの選択で変わる 30 年後の天気予報」 講師：正木 明 氏	約350人	7月3日(金)
虹の仲間づくりカレッジ	目的：県内協同組合の職員の交流を通じた協同組合間協同の実現 テーマ：SDGs の目標をふまえ『生産』『環境』『地域のコミュニティ』などが抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」という視点で考え、実践に繋げる。	約25人	①7月13日(月) ～7月14日(火) ②9月18日(金) ③2月12日(金)
虹の仲間ですくづくり・ 海づくり	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいるすくづくり活動や海づくり活動に兵庫 JCC の参加を呼びかける。	約100人	実施日未定
協同組合 研究・交流会	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深め、生産者と消費者の交流に取り組む。生協、農協、漁協、森林組合の各団体が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後のさらなる協同・連携を促進する。	約40人	実施日未定
ひょうごまるごと 健康チャレンジ 2020	2018 年度から取り組みはじめた「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を生協・農業・漁協・森林組合が合同で認知度の向上や参加者拡大に取り組む。すべての人の共通課題である「健康」について協同組合はもちろん、兵庫県民の心と体の健康な生活習慣づくりに貢献する取り組みにする。	—	チャレンジ期間 7月1日(水)～ 12月31日(木) を予定
PHD運動(※)への協力	各協同組合のなかで PHD 運動を紹介する取り組みをすすめる。	—	—

(※) 公益財団法人 PHD 協会とは

## 【設立の経緯】

1962 年からネパールを中心に約 20 年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して 1981 年 6 月に設立。

## 【組織の目的】

1. アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2. 日本人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人材を育成 (Human Development) し、「共に生きる」社会をめざすこと。

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## JA(農協)から

### JA 営農指導員が活動実績を発表



県知事賞を受賞した北代さん

JA 兵庫中央会および JA 全農兵庫は、2月21日、JA 営農指導員の相互研鑽や情報共有を目的に「令和元年度 JA 営農指導員研修大会・TAC 活動成果発表会」を開き、JA 営農指導員や関係者ら 85 人が参加しました。

7 人の営農指導員が、新たな特産品づくりや産地拡大に向けた取り組み等の営農指導活動を発表。審査の結果、『新たな特産品 もち麦 ～小麦からもち麦への全面品種転換～』と題して発表した、JA みのりの北代 雪馬さんが最優秀である県知事賞を受賞しました。

北代さんは、特産品である山田錦と加東市が転作作物として推奨している小麦や大豆との栽培時期が重なることが農家の課題とされるなか、地元の販売業者から提案されたもち麦に着目。先進地への視察や試験栽培を通じて栽培課題を克服するとともに、講習会の開催や情報誌の作成等により 4 年かけて小麦をもち麦へ全面転換するなど、もち麦の振興を進め、農家の所得向上に貢献した取り組みを発表しました。

審査委員長の兵庫県立農林水産技術総合センターの多田 勝利経営支援部長は「従来の小麦生産より生産者手取りでも大きく改善されており、今後、この取り組みが拡大し、実需と安定的に結びついた産地として維持・拡大することを期待します」と高く評価しました。



もち麦の振興を進める取り組みを発表する北代さん

## JForest(森林組合)から

### ひょうご森のまつりに出展

兵庫県森林組合連合会は 11 月 9 日(土)に兵庫県甲山森林公園(西宮市甲山町)で開催された「ひょうご森のまつり」に販売ブースを出展しました。

兵庫県では、多様な公益的機能を持つ森林を県民共通の財産と位置付け、県民総参加で森を守り、育て、広げる取り組みを行っています。それを PR する場として、毎年「ひょうご森のまつり」が開催されています。森のまつりでは、式典をはじめ記念講演や展示・販売ブース、里山整備体験等の様々な催しがあり、約 5000 人の参加がありました。兵庫県森林組合連合会は毎年「ひょうご森のまつり」に出展しています。今年は、ヒノキの間伐材を使用したキーホルダーやマグネット、鍋敷き、盃、ヒノキの香りが楽しめるヒノキチップなど多くの商品を販売しました。普段は目にすることのない商品が多いため、出展ブースは多くの人で賑わいました。中でも人気だったのが、様々なパーツを組み合わせて作るオリジナルアクセサリーの商品でした。



出展ブース



販売商品



オリジナルアクセサリー

オリジナルアクセサリーは、キーホルダー、ストラップ、プレスレットなど 6 種類のタイプがあり、それぞれのタイプに好きなパーツを思い思いに組み合わせて作ることができます。アクセサリーの作成中は親子で相談しながら真剣に作っているのが印象的でした。

アクセサリーの作成中は親子で相談しながら真剣に作っているのが印象的でした。

# 生協から

## 第15回「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

1月11日（土）、兵庫県民会館において、第15回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。兵庫県知事をはじめ、消費者行政の皆様、兵庫県農業協同組合中央会、兵庫県森林組合連合会、共栄火災海上保険株式会社、会員生協・団体の役員と職員、合わせて47人の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにす機会となりました。

新春トップセミナーでは、兵庫県生協連 木田 克也 会長理事の開会挨拶に続き、兵庫県 井戸 敏三 知事からご挨拶をいただきました。その後、兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 木村 玲欧 教授から「阪神・淡路大震災25年に考える大規模自然災害への備え～地域の生活復興に向けた生協の役割と期待～」と題して講演いただきました。



兵庫県 井戸 敏三 知事



講演される 木村 玲欧 教授

木村教授は講演で、自然環境が変わってしまった今、「個人・組織・社会」も適応する必要性について触れ、「今の若い人たちにとって阪神・淡路大震災は、もはや他人事となってしまった。それをもう一度、『わがこと』として思ってもらおう。台風や地震等が頻発する中、防災・減災の備えと訓練を重ねることが四半世紀たった今の時点での経営層の役割だと言える」と話されました。

出席者からは、「盛り沢山の内容だったが良く理解できた」等の声があり、阪神・淡路大震災25年に震災を風化させない「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」ことをあらためて考えるセミナーとなりました。

その後、開催された賀詞交換会には、兵庫県の消費者行政の方々にもご参加いただきました。木田 克也 会長理事の挨拶に続き、ご来賓を代表して兵庫県企画県民部県民生活局 生安 衛 局長によるご挨拶と乾杯のご発声で和やかに会がスタート。日頃からご指導いただいている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞を交換し、交流を深めました。

# JF(漁協)から

## 大型船シミュレーター研修を実施 ～海技大学校で開催～

国土交通省神戸運輸監理部、独立行政法人海技教育機構 海技大学校（芦屋市）が主催する安全運航講習会が1月21日（火）同大学校内で開催され、JF組合員ら参加者は漁船海難発生メカニズム解説のほか、シミュレーター講習を受講しました。この講習は平成22年から毎年、イカナゴ漁期前のこの時期に安全操業の意識を高めてもらおうと開催されており、今年で12回目を数えます。

シミュレーター講習を行う施設は、大型船の操舵室や明石海峡付近の風景を忠実に再現し、任意で漁船などの動きを盛り込むことが出来るとともに、晴天・濃霧・雨天など気象条件を変化させ疑似体験が可能です。今回は、神戸沖から明石海峡大橋を通過する大型船操舵室内の体験や、シミュレーション内の大型船と漁船の双方の操舵室に視点を切り替え、大型船と漁船との距離感の違いを体験しました。



エンジン音や揺れまで体験できるシミュレーター



CPR実習を行う漁業者

参加者からは「漁船からは見えていても大型船からは見えていないことが分かった。今後は気を付けたい」、「大型船に接近することはあるが、死角となって大型船から漁船が見えないことがよく分かった」などの感想がありました。

他に「漁船海難について」と題した講演や CPR と AED 使用法を学ぶ「救急救命講習」もあり、参加者にとって海難事故防止に向けた認識を深めることが出来た一日となりました。

## 協同組合運動 に生きる 「虹の仲間とともに」

生活協同組合コープこうべ  
組織管理部 人材開発 コープこうべ教育学習センター

齋藤 優子



2014年の秋、10年あまり担当していた組合員活動の部署を離れて、コープこうべの研修施設「協同学苑」を活用した新たな研修プログラムを企画・運営する部署を立ち上げるという業務につきました。

この時期、2009年の賀川豊彦献身100年や、2012年の協同組合年を契機として、協同組合の役割の再確認や協同組合間の連携強化の機運は非常に高まっていました。一方で、一職員としての日々の業務の中では協同組合の意義や価値を見出すことが難しくなっているとも感じていて、それは、他の協同組合にも共通の課題であることもわかってきました。

もともと「協同学苑」は、協同組合の歴史や理念について学べる史料館も備え、全国の生協の研修施設として建てられたもので、さらに、「JA兵庫教育センター」も「協同学苑」の中にあります。この施設で、分野を超えた協同組合の職員が集い、協同組合の歴史・理念を学び、これまで果たしてきた役割とこれから果たすべき役割についてじっくりと語り合える場をつくりたい！と思い至るのにそう時間はかかりませんでした。

協同組合の分野を超えた合同職員研修を、2015年からスタートさせた「コープこうべ教育学習センター」の中軸に位置付けました。この合同研修の一つが兵庫JCCと一緒に取り組んでいる「虹の仲間づくりカレッジ」です。ともすれば利害関係が対立するような異なる分野の協同組合の職員と一緒に研修をすることで、どんな雰囲気になるのか、最初は恐る恐るでした。

でもふたを開けてみれば、そんな心配をよそに、そこで繰り広げられたのは、受講生のエネルギッ

シュで、真摯な対話でした。研修の枠組みはあまり関係なかったと思います。「協同組合の職員」であるという共通項が、参加者を強く結びつけているように感じました。

2018年度からはSDGsをテーマに、協同組合としての社会課題解決に取り組み、合同インターンシップや森林保全の活動など創造性に富んだ実践が展開されました。実践を通して、「協同組合間の連携は難しいと思っていたけど、やればできる！」という意識も醸成されていきます。最終回の実践報告は、協同組合の職員はやはりどこかで共通の志と熱い思いを抱いているのだと感ずることができ瞬間でした。

「協同組合の職員になるということは、生き方の選択だ」神戸大学名誉教授 保田 茂 先生の言葉です。「協同組合」は産業革命と資本主義経済の到来で生じた資本家と労働者の想像を絶する格差に対し、労働者が力を寄せ合い、自らの生活や地域社会を守るために創り上げた仕組みです。そのため、資本の力に拠らない、人と人との協同が大切にされます。「協同組合の職員になった」ということは、お金のためではない、人を中心とした考え方、働き方、生き方をすることを選んだのだということです。

「虹の仲間づくりカレッジ」を通して、受講生の皆さんからその生き方のヒントをたくさん分けていただきました。これからも一人でも多くの協同組合の職員とそのことを分かち合いながら、自分自身の「協同組合の職員としての生き方」を見つけて、小さくても一つ一つカタチにしていきたいと思っています。